

令和5年度 学校園評価(関係者評価)シート

(様式2)

学校園名

加古川市立鳩里幼稚園

1 教育目標

いきいきと自分を表現し、こころ豊かな子供の育成

2 基本方針

- ・保護者と連携し、一人一人の子供の情緒の安定を図る。
- ・自尊感情を育み、自分も友達も大切する「思いやりの気持ち」が育つ保育を目指す。
- ・子供が自ら環境に関わり、友達と共にいきいきと主体的に活動するための環境を構成する。

3 指導目標

(1)健康で明るく規則正しく生活できる子 (2)感じたこと、考えたことを素直に表現する子 (3)思いやりがあり、人の痛みがわかる子 (4)何事にもあきらめない子

評価基準

A:できている

B:だいたいできている

C:あまりできていない

D:できていない

E:わからない

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ(関係者評価)	達成状況
基本的な生活習慣の確立	◎健康で明るく規則正しく生活できる子 ・「早寝早起き朝ご飯」の励行 ・身辺自立に向けた丁寧な個別の援助 ・気持ちのよい挨拶の推進	B	今年度は、保護者全員の当番制による挨拶運動を月1回行った。園全体でも、保育者が明るい挨拶を積極的に行うことで、挨拶を自分からする子供が増えた。しかし、登園時間に間に合わない子や、睡眠不足の子、偏食の子も見受けられた。来年度は、生活リズムの改善について保護者と連携したり、食育の取り組みを充実させたりする必要がある。	入園・進級当初に比べて、子供たちの表情がいきいきとし、挨拶もできるようになっている。基本的な生活習慣の確立については、家庭教育が第一だと考えるが、園教育において、食育や保護者への啓発も大切であることが分かった。今年度の反省をいかして、来年度の取り組みに生かしてほしい。	B
発達に応じた表現力の育成	◎感じたこと、考えたことを素直に表現する子 ・身近な自然に触れ、感動体験を大切に、伝えたい気持ちを育む。 ・身体や言葉、絵、造形など、いろいろな方法で表現することを楽しめるようにする。 ・自分なりに表現する姿を温かく受け止め、伝わる嬉しさが感じられるように援助し、伝えようとする意欲につなげる。	A	直接体験や自然に触れて五感を通して感じたことを身体や言葉、いろいろな表現で伝える取り組みを行ってきた。保育者や友達との温かな関係性の中で、自分の思いを素直に出せるようになった。劇遊びでは、子供たちがのびのびと表現を楽しむことができた。	はとっこフェスティバル(音楽会&造形展)や生活発表会の取り組みを参観させてもらい、子供たちが楽しんで表現活動を行っていると感じる。自然に触れて感じたことを伝えたり遊びに取り入れたりする園教育はとても良い。職員が、それぞれの子供の個性を大切にしながら関わっていることも保護者のアンケートから伝わった。	A
思いやりの気持ちを育む	◎思いやりがあり、人の痛みがわかる子 ・親子の触れ合いを通して安心感をもち、一緒に活動する楽しさを感じる。 ・いろいろな思いや考えがあることを知ったりそれぞれの良さに気付いたりできるようにする。 ・友達との協同的な遊びや生活の中で、相手の気持ちに気付いたり共感したりする経験を重ね思いやりの心を育む。 ・小動物や草花との触れ合い、飼育栽培を通して慈しむ心を育む。 ・自分のことを好きになり、家族や友達を大切に思う気持ちを育む。	A	年間を通して、「自尊感情を育み、互いに思いやる気持ちを育む」というテーマで、人権アドバイザーの先生に指導していただきながら、保育を進めることができた。親子活動、絵本の読み聞かせ、当番活動を積極的に取り入れ、子供たちが安心して過ごし、いろいろな考え方に触れたり、小さな生き物に思いを寄せたりすることができた。また、日々の保育の中で、異年齢の関りを大切にしたり、子供同士で良さを認めたり助け合ったり出来るようにカンファレンスを行い、保育者の援助の見直しに努めることができた。	保護者のアンケートから、「友達のことを考えられるようになった」「友達と一緒に遊びたいという気持ちが強くなった」など、友達との関わる嬉しさや楽しさを感じられるようになってきていると思う。絵本の読み聞かせや当番活動なども良かった。今年度は、保護者の人権研修を行い、保護者の子育てに対する意識の高さを実感することができた。保護者同士が子育てについて気軽に話すことや、我が子だけでなく周りの子供の成長を感じることも非常に大切である。子供と保護者と両輪で学び合えたことは今年度の成果である。	A
あきらめない気持ちを育む	◎何事にもあきらめない子 ・生活や遊びの中で、「失敗してもまた挑戦してみよう」と思えるように、その過程を認めたり立ち上がるサポートをしたりして、一つ一つ達成感が感じられるようにする。 ・夢中になって遊び、試行錯誤できる環境を整える。 ・様々な運動遊びを通して体力・運動能力を高めるとともに、意欲的に取り組む態度を養う。	A	好きな遊びの中で、泥団子づくりや竹馬や鉄棒、縄跳び等、自分の目標や遊びの目的に向かって、友達と一緒に取り組むことができた。保護者アンケートからも、「チャレンジする気持ち」「諦めない気持ち」「失敗しても良いという気持ち」が育まれたという意見が多くあった。来年度も子供が自分から興味をもって遊び出し、試行錯誤しながら夢中になって遊べるよう環境構成の工夫を図りたい。	最近の社会において間違いが許されない風潮があり、子供も「間違えたくない」「失敗したくない」という思いの子が増えていることを知った。園教育の中で、「失敗してもよい、挑戦する気持ちの大切さ」を育むことは非常に大切である。子供たちが園生活でのびのびと遊んでいること、遊びや活動に対する意欲が高まっていることが良い。子供たちが友達と一緒に試したり工夫したりして遊べる様々な取り組みも良かった。	A
地域に開かれた園作り	・家庭教育大学(人権学習交流会)における人権研修の推進 ・鳩里小学校への円滑な接続 ・鳩里保育園5歳児との交流 ・中学生、高校生、高齢者の方々など、地域の方との交流 ・スクリレの活用による積極的な情報発信(学校運営協議会委員への発信) ・地域の畑(いも掘り)	B	鳩里小学校の音楽会を鳩里保育園の5歳児と鳩里幼稚園の5歳児が共に鑑賞し、その後、校庭で一緒に遊ぶことができた。プール交流は、雨天で中止となったが、保育園児との交流を実現することができた。来年度は、こども園統合に向けて、加古川幼稚園とも交流、連携を図っていききたい。また、地域の方にも掘りをさせてもらう等、新たな取り組みも行うことができた。	保育園児との交流や地域の畑(いも掘り)ができたことは、今年度の新たな取り組みであり大変良かった。小学校と連携や、こども園化に向けて、幼稚園の行事のあり方も見直すことが増えてくると思うが、子供たちにとって学びある活動になるよう取り組んでほしい。また、地震などの災害が懸念される。安全教育や避難訓練の実施を引き続きしっかりと行ってほしい。	B

